



SRI SATHYA SAI INTERNATIONAL ORGANIZATION



クリスマス2021スタディーガイド

JESUS CHRIST - HIS LIFE AND MESSAGE

イエス・キリストの生涯とメッセージ

神聖なクリスマスの日に愛と感謝を込めて

バガヴァン・シュリ・サティヤ・サイババ様

の蓮華の御足に捧げます

人々は、キリストの犠牲について、キリストが十字架に磔になったことを基に語ります。しかし、キリストは、群衆に囲まれ、縛られ、その群衆に茨で作った冠をかぶせられて捕えられ、それから、イエスを捕えたその者たちによって、釘で十字架に打ちつけられました。警察官に縛り上げられ、鞭打たれた人のことを、「彼はすべてを犠牲にした」とは言えません。なぜなら、その人は自由の身ではないからです。イエスが自由の身であった時に自分の意志で払った犠牲に注目してみましょう。イエスは、自分の幸せ、財産、快適さ、安全、地位を犠牲にしました。イエスは、強い影響力を持つ人たちの憎悪に勇敢に立ち向かいました。イエスは降伏も妥協も拒みませんでした。イエスは最も手放し難いものである「エゴ」〔我執／自我〕を手放しました。これらに対してイエスを大いに敬いなさい。イエスは、肉体が人を痛めつける道具である欲望を自ら進んで犠牲にしました。これは、監禁されて強制的に肉体を犠牲にすることよりも大きな犠牲です。イエスの誕生日のお祝いは、あなたが少なくとも一つか二つの欲望を犠牲にすること、そして、それよりもさらに災難を引き起こしかねないエゴの衝動に打ち勝つことによって、表さなければなりません。

1972年12月24日の御講話

イエス・キリストの生涯とメッセージ

イエス・キリストのメッセージ 2

現世は一夜限りの仮の宿 3

神は愛、愛の中で生きなさい 4

いつも親切に話さない 4

神は遍在 5

犠牲と慈善 6

真・善・美 6

集めるべき三つの真の宝 7

一体性と純粹性の偉大さ 8

イエスキリストのメッセージ

12月25日、イエスが生まれた時、三人の王がイエスの生まれた場所にやって来ました。三人は生まれたばかりの幼子について、三つの異なる見解を示しました。その一人は、幼子を見て、「この子は神を愛する者になるとお見受けします」と言いました。二人目の王は、「神はこの子を愛するでしょう」と言いました。三人目の王は、「まさに、この子は神ご自身です」と明言しました。一人目の王は幼子を身体的な観点で見ました。二人目の王は心的（精神的）な観点で見ました。三人目の王はアトマ的（霊的）な観点で見ました。

この三つの宣言は、いかにして人が人間から神のレベルへと向上するかを示しています。必要なのは、人の中にある動物的、悪魔的な性質を破壊することです。現代人は、命の宿っていない偶像や肖像を崇拜していますが、生身の人間を愛そうとはしていません。これはイエスの最初のメッセージでした。人は毎日毎日隣人を見ていても、隣人を愛するという選択をしません。そのような人間が目には見えない神を愛することができるなど、どうして信じられるでしょう？ もし自分の目の前にいる、目に見える人を愛することができないなら、どうして目に見えない存在を愛することができるでしょう？そんなことは

不可能です。自分の周りにはいる生きとし生けるものを愛している人だけが、目に見えない神を愛することができるのです。愛は、形ある存在への愛から始めなければなりません。それをすべての存在へと広げなければなりません。これは霊性の第一段階です。

霊性とは、瞑想や礼拝などに夢中になることではありません。霊性には、人の中にある動物性と悪魔性をすっかり消滅させて、人が生来持っている神性を顕現させることが伴います。人を覆っている執着や憎しみが取り除かれると、人の中にある生来の神性、人の中にあるサット・チット・アーナンダ〔実在・純粹意識・至福〕が姿を現します。あなた自身が神なのに、なぜ他の場所で神を探すのですか？それは無知の印です。

1992年12月25日の御講話

質問

1. どのような霊性修行を行えば、あなたの動物的資質を抑えることができるでしょうか？
2. 私たち一人ひとりに内在する神性を、どうしたら顕現させることができるでしょうか？
3. 霊性志願者にとっての最大の犠牲は何でしょうか？

現世は一夜限りの仮の宿

意識に関するより高いレベルの知識と、より高次の存在に関する知識を深めなさい。知識は技術につながります。そのような知識を使う技術から、人は平静を得るのです。

この人生は、長い巡礼の旅における宿泊場所の一つであり、今の私たちは一夜限りの仮の宿にいるのだということを認識しなければなりません。そこには番人が一人います。番人は心（マインド）です。ですから、いつまでも心（マインド）や身体に執着してはなりません。この「ネガティブ」な身体の中には、「ポジティブ」な神性があるのです。あなたがすべてを包み込む無限の愛になれば、あなたの中に、あなたを通して、神性が顕現するでしょう。イエスのようであろうと努めなさい。

イエスは、神の愛を広め、神の愛を捧げ、神の愛を受け、神の愛に生きることを唯一の喜びとする人でした。イエスの誕生日については、「イエスの誕生時に現れた明るい星」に基づいたさまざまな説があります。それは八百年に一度だけ見えると言われています。その出現とイエスの誕生とは何の関係もありません。神性エネルギーや神の化身が地上に降臨する時に、星が出現しなければならないという決まりはありません。それは信者たちの意見にすぎません。

しかし、無限の次元の輝きを広げるイエス自身は、無限の価値を持つ「星」でした。なぜ、輝きが劣る別のものを考えるのですか？

今日は、十二月の雪が降る中、イルミネーションやクリスマスツリーや祈りで祝われる、イエスの誕生日です。しかし、たった一日だけ祈って、あとはずっと神を忘れてのでは、無意味です。それは空虚な見世物であり、ハートから生じたものではありません。キリストの教えに従って生活し、日常生活の中で実践して初めて、真のクリスチャンであると言えるのです。キリストの教えを二つ守れば、それで十分です。キリストは「すべての生命は一つである、私の愛する息子よ。すべての人に対して同じでありなさい」と言いました。

1979年12月25日の御講話

質問

1. イエス・キリストの生涯について考える時、彼の中で最も優れていた特質は何だと思いますか？
2. どのようにしたら、イエス・キリストの教えを実践し、そのメッセージを生きることができるでしょうか？

神は愛、愛の中で生きなさい

「神への愛を育みなさい。他のすべての形の愛は、まったく愛などではなく、はかなく一時的な執着にすぎません。人間の最大の愚行は、自分が神であることを忘れてしまうことです。すべての人は、自分が神から来たことを悟るべきです。

すべての人は神の子です。誰もがますます神に近づこうとすべきです。それが霊性修行（サーダナ）です。あなたは、神が自分のハートに宿っていると感じなければなりません。ハートの中に慈愛を育まなければなりません。なぜなら、慈愛がなければ、ハートはただの石に過ぎないからです。

それがイエスのメッセージです。愛のメッセージです。愛は神です。愛の中で生きなさい。愛をもって一日を始めなさい。愛をもって一日を過ごしなさい。愛をもって一日を終えなさい。これが神への道です。愛に満たされた人だけが主に愛されるでしょう。今日は

ここに多くの国々から帰依者たちが来ています。あなた方がここで体験した幸福が何であろうとも、自国に戻ってからもそれを維持しなさい。それは神の恩寵によって得られるのです。

あなたは愛を通じて、愛だけによって、それを得ることができます。その愛があれば、あなたが永遠に神の近くにいることは確実です。」

1979年12月25日の御講話

質問

1. どうしたら主にとって愛しい存在になれるのでしょうか？
2. どうしたら神の愛を実践し、すべての人に分け与えることができますか？
3. 神への道とは何ですか？

いつも親切に話しなさい

霊性とは、単にバジヤンを歌い、何らかの礼拝の儀式を行うことではありません。崇高な性質を培いなさい。常に他の人々の役に立ち、善い評判を得るようにしなさい。イエスは、自分の肉体を十字架の上で犠牲に捧げたことで、あれほどの名声を得ました。皆さんもまた、そのような大いなる犠牲の準備を整えておかなければなりません。イエス キリストは、そのような崇高な性質を養いました。彼は愛する心で、何人かの貧しい窮乏生活を送っている人々を保護しました。事実、そのような境涯にある何人かの人々が、彼に保護を求めたのです。その過程の中で、彼は何人かの敵の激しい怒りを買いました。皆さんは何らかの困難を経なければならぬとしても、人々を助けるべきです。決して他の人々の悪口を言ってはなりません。それは、同じアートマが、すべての生き物に浸透しているからです。もしあなたが、他の人をののしれば、それは自分自身をののしることと同じです。もしあなたが彼らを好きでないのなら、彼らから離れていなさい。しかし、決して彼らをののしってはなりません。もしあなたが悪い性質を取り除かなかつたとすれば、どれだけ善い事をしてても何の役にも立ちません。

もしあなたが他の人々に善い事をするのができないのであれば、少なくとも、善い言葉を語りなさい。あなたは常に親切なことをしてあげられるとは限りませんが、いつも親切な話し方をするのはできます。もし誰かが苦しんでいるのを見つけたら、その人を助けるように努めなさい。きょうはその人の番ですが、明日になれば、あなたが苦しむ番がやって来るかもしれません。このことをいつも心に留めておきなさい。いかなる人も、痛みや苦しみを避けることはできません。常に万人の幸せのために祈りなさい。

2002年12月25日の御講話

質問

1. 親切に話すことを意識的に実践するには、どうしたらいいのでしょうか？
2. 「もしあなたが悪い性質を取り除かなかつたとすれば、どれだけ善い事をしてても何の役にも立ちません」について考えてみてください。
3. 霊性志願者にとって他人を誹謗中傷することが好ましくないのはなぜですか？

神は遍在

イエスは、最も優れた弟子のひとりであったペテロに、愛こそが神であるから、愛に生きるようにと勧めました。人は、見返りに何も求めず、感謝すらも求めない愛、そのまま犠牲と奉仕にもなっている愛を体現した時に、初めて神を体験することができます。ペテロは、主からそのような教えを聞いている時、新しい喜びが自分の内に湧きあがって来るのを感じ、「喜び」(JOY)という言葉に新しい意味を見出しました。「J」は、「イエス」(Jesus)を意味します。ペテロはそれを、文字の並びから、イエスを第一に愛するようにと受け留めました。「O」は「他の人々」(Others)を意味し、イエスの次に愛さなければなりません。「Y」は「あなた自身」(You)のことで、自分を最後に愛するようにならなければなりません。しかし、今の人間の状況をごらんください。人は、まず自分を愛し、次に他者を愛し、イエスは一番後回しになっています！神が心を占める時、心の産物にすぎない客観世界や自然界はその正当性を失い、大海の波である人間は、その源の中で消えてしまいます。

イエスは信仰の力を説き、身をもってその力を示し、ついには自分の身に生命そのものを犠牲に捧げる究極の状況を招きました。イエスを苦しめる者たちを弟子たちが非難しはじめる時、イエスは、「すべては一つである。我が子よ、すべての人に同じ心で接しなさい」と言って、それをやめさせました。イエスは自らを弾圧していたパウロにビジョンを与えたので、パウロは悔い改めて、信仰心と熱意に満ちた弟子へと変容を遂げました。私たちは、宇宙に神が遍満していると見るのができた時、初めて悪

の勢力と戦う力をもつことができます。長年にわたって祈りや巡礼に携わっている多くの人が、どうしていまだに神を実現することができないのか、不思議に思っています。神を探するために世界を回る必要はありません。神は純粋な帰依者を探しています。神が遍在であることを意識している帰依者は、いたるところに神を見ます。帰依者は、神のいないところはないという深い確信をもっていなければなりません。それこそが帰依の真の徴です。瞑想と祈りは、自己を浄化する手段として価値があります。しかしそれは神実現(神我顕現)につながるものではありません。神への揺るぎない信仰は、説明し難い至福をもたらします。人は、信仰を蝕む疑念に屈してはなりません。愛の力は無限です。愛はあらゆる障害を克服することができます。

1986年12月25日の御講話

質問

1. あなたはどのようにして人生の本当の喜びを見つけますか？
2. 信仰と愛と犠牲はどのような関係にあるのでしょうか？
3. 瞑想と祈りが人生にもたらす価値について考えてみましょう。

犠牲と慈善

犠牲は人格の一面でもあります。それは、若い人が身に付けるべき資質の一つです。慈善や博愛の行為は犠牲を伴うと思われがちですが、慈善と犠牲には大きな違いがあります。慈善を行う人々は、自分が得た恵みのほんの一部を他人に与えるにすぎません。土地の提供、食料品の配布、肉体労働の提供、教育や知識の普及などがこれにあたります。慈善行為によって、自分の持っているものすべてを手放す人はいません。慈善行為をしなかったとって、貧しい生まれになる呪いをかけられるわけではありません。

生活レベルが上がると、生きていくのに必要不可欠で適正なものは自分たちのために残り、その残りを社会のために寄付する人々がいます。そのような人々は、世界で最も高い評価を得ます。貧しい人々や無力な人々のために、自分の財産の一部を提供しなければならないと、私たちの聖典には記されています。この命令を無視して、強欲な吝嗇家のよ

うに、利己的で、無慈悲で、不正で、不当な方法で、何百万ルピーも蓄えてはなりません。そのような守銭奴は、遅かれ早かれ、災難と零落の犠牲者となるでしょう。それは避けられないことです。不当な手段で積み上げられた富は、貧しい人々の血を搾取した結果です。若者は、そのような不当な生き方をする人々の奴隷になるべきではありませんし、搾取によって生計を立てることを選ぶべきでもありません。

サティヤ・サイ・ヴァーヒニー

質問

1. 慈善と犠牲の違いは何ですか？ どうしたら日常生活の中に犠牲を取り入れることができますか。
2. 自分の財産をどのように使うべきでしょうか？

真・善・美

真理は根本的な原理です。すべての宗教は、誰であっても自分が誓った言葉を破るべきではないと言明しています。人は自らの誓約を守るべし、人は自らの言葉を命の息吹と見なすべし、自らの約束を守ることは最も偉大な宝なり——これは、偉大な法典の施与者、皇帝マヌの、最も重要な教えでした。

プラトンはソクラテスの一番弟子でした。アリストテレスはプラトンの弟子でした。アレクサンドロス大王はアリストテレスの教え子でした。プラトンは、社会の安寧をもたらすものとして、道徳、正義、相互寛容に基づいた政治制度を賞賛しました。プラトンは、「真・善・美」を、基本的美徳として最も重視しました。この三つの特質は、ヴェーダでは「サッティヤム・シヴァム・スンダラム」

と呼ばれています。このように、異なる言葉が使われていても、本質的な趣旨は同じです。霊的な戒律は、見かけの多様性の下に横たわる一体性を認識し、神性を悟ることにあります。

1990年12月25日の御講話

質問

1. 生活の中で、一見して多種多様である中に、一体性を見出すことができる場面について考えてみましょう。
2. 求道者にとって重要な基本的美徳である真・善・美について考えてみましょう。

集めるべき三つの真の宝

その頃、エルサレムの聖なる神殿の祭司たちは、墮落し、商業主義に陥っていました。彼らは高慢で利己的な人間に成り下がっていたのです。イエスは彼らを非難し、悪い慣習を根絶しようとしていました。なぜなら、イエスの目には、すべての姿が神の姿であり、これに反するいかなる行為も容認することができなかったからです。それで、人々から「お前は誰なのか」と問われた時、イエスは「私と私の父は一つである」と答えました。イエスは、神が父であり、人類は兄弟であることを、すべての人に教えようとしていました。

伝統を重んじるエゴイストの人々は、イエスを偽預言者とみなし、あらゆる手段でイエスの使命を妨げようとしていました。しかし、イエスは逡巡しませんでした。反対されながらも、彼は生きた真理の模範となり、社会を浄化し続けました。多くの弟子がイエスの後に続きました。しかし、歴史を見れば、ラーマ、クリシュナ、イエス、ムハンマドであっても、どんなに近い弟子であっても、完全に帰依することは滅多にありません。そのほとんどはパートタイムの帰依者にすぎません。イエスには12人の弟子がいました。そのほとんどはイエスを信じ、イエスの教えを実践していました。しかしユダは強欲に屈しました。彼はたった三十枚のコインのために師を裏切りました。この裏切りの後、彼は人生に喜びを見出すことができなくなりました。彼

の心は安らぎをもたらさず、彼は自殺に救いを求めるしかありませんでした。慕っているふりをする人々の裏切り行為は、古くから起こっています。腐敗し、強欲で、利己的になった人々は、自分たちの師に関する虚偽を広めます。私たちは二千年前にユダがいたという話を耳にします。しかし、カリの時代においては、人々はお金に執着し、ユダたちが増殖するのです。彼らはわずかな富を集めようとしていました。しかし、集めるべき三つの真の宝物は、善良な人格、善行、神の知識です。土地や建物、銀や金、ドルやその他の通貨は、一時的なものであり、些末なものです。それらは人生が続く間だけの財産です。しかし、これら三つの宝物は、あなたが無限の神と一体になるまで、あなたを支え、強くしてくれるでしょう。

1979年12月25日の御講話

質問

1. 「私と私の父は一つである」という考えは、私たちの世俗的行為にどのような影響を及ぼすことができますか？
2. イエスと弟子たちの関係について考えてみましょう。
3. 人が手に入れるべき三つの真の宝物とは何ですか？

一体性と純粹性の偉大さ

すべての宗教が、社会の安寧を促進するために一体性を広めていることは、明らかです。世界の幸福は、社会の幸福と密接に結びついています。真我の悟りと真我の知識は、社会との関わり合いを通してのみ、手に入れることができます。残念なことに、今日の社会は不和と混乱と争いだらけです。

すべての宗教は、靈的な純粹性の偉大さを説いています。すべての宗教は、真理の道を固く守るよう人々に呼びかけています。また、すべての宗教は、人間にとって善良な性質は不可欠であると教えています。このように、すべての宗教の真髓が同一である時、すべての聖典が同一の真理を宣言している時、すべての人間の努力目標が一つである時、どこに相違の根拠があるでしょうか？道はさまざまでも目的地はまったく同一です。

これらの事実にもかかわらず、宗教の違いを理由に紛争や扇動に身を任すなら、それは人間が墮落している印です。土砂降りの雨で降る水は純粹です。雨は山々、平野、川、海、等々に降ります。雨水が流れる地域によ

って、水の名と姿は変化します。変化するからといって、水はそれぞれ異なると考えべきではありません。それぞれの信仰の開祖の教えを基に、個々の国の時と状況の必要条件を顧慮し、また、関係する人々の特定の必要も念頭に置いて、一定の規則と規範が定められました。ですから、一方の信仰のほうが優れていて、別の信仰は劣ると考えるべきではありません。人間の第一の義務は、これら神聖な真理を心に留め、生活の中でそれらを実践することです。

1990年12月25日の御講話

質問

1. すべての宗教の中にある根本的な一体性の原理とは何ですか？
2. さまざまな宗教活動において、一体性の欠如から争いが生じることについて考えてみましょう。





SRI SATHYA SAI SCRIPTURAL STUDIES COMMITTEE
©2021 SRI SATHYA SAI INTERNATIONAL ORGANIZATION
ALL RIGHTS RESERVED